

## 旧釧路鉄道

摩周屈斜路トレイル（MKT）のこの箇所は、国道 391 号線と並行して旧釧路鉄道沿いをおよそ 1.2 キロにわたって進むルートです。線路はもう残っていませんが、植物に覆われている当時の盛土を確認することができます。統一されたほぼ水平の、あるいは若干傾斜があった上部と、真っすぐ、あるいは緩やかなカーブとなっている進路から、天然の盛土とは区別することができます。

硫黄山の採掘産業は、19 世紀末の釧路地方の一大産業でした。山では硫黄鉱石が採掘され、標茶（しべちゃ）で精製が行われたあとで、釧路港から硫黄としてその先の目的地へと出荷されました。旧釧路鉄道は硫黄産業を支え、荷馬車よりも大量の鉱石を素早くかつコスト効率よく輸送することで、その成長を可能としました。当時、天然硫黄は、製造から商業用農業までさまざまな産業で使用され、とても重宝される商品でした。また、火薬の主な材料でもありました。

旧釧路鉄道は 1887 に開設し、1896 年に硫黄がほぼ枯渇するまで使用されていました。旧釧路鉄道では 2 種類の機関車が運行し、絶頂期には毎年 22,000 トン以上もの鉱石が輸送されていました。硫黄山の麓にある硫黄山レストハウスには、その機関車のうちの 1 つの 1:3 縮尺模型が展示されています